



登米地域の稲作通信 第6号

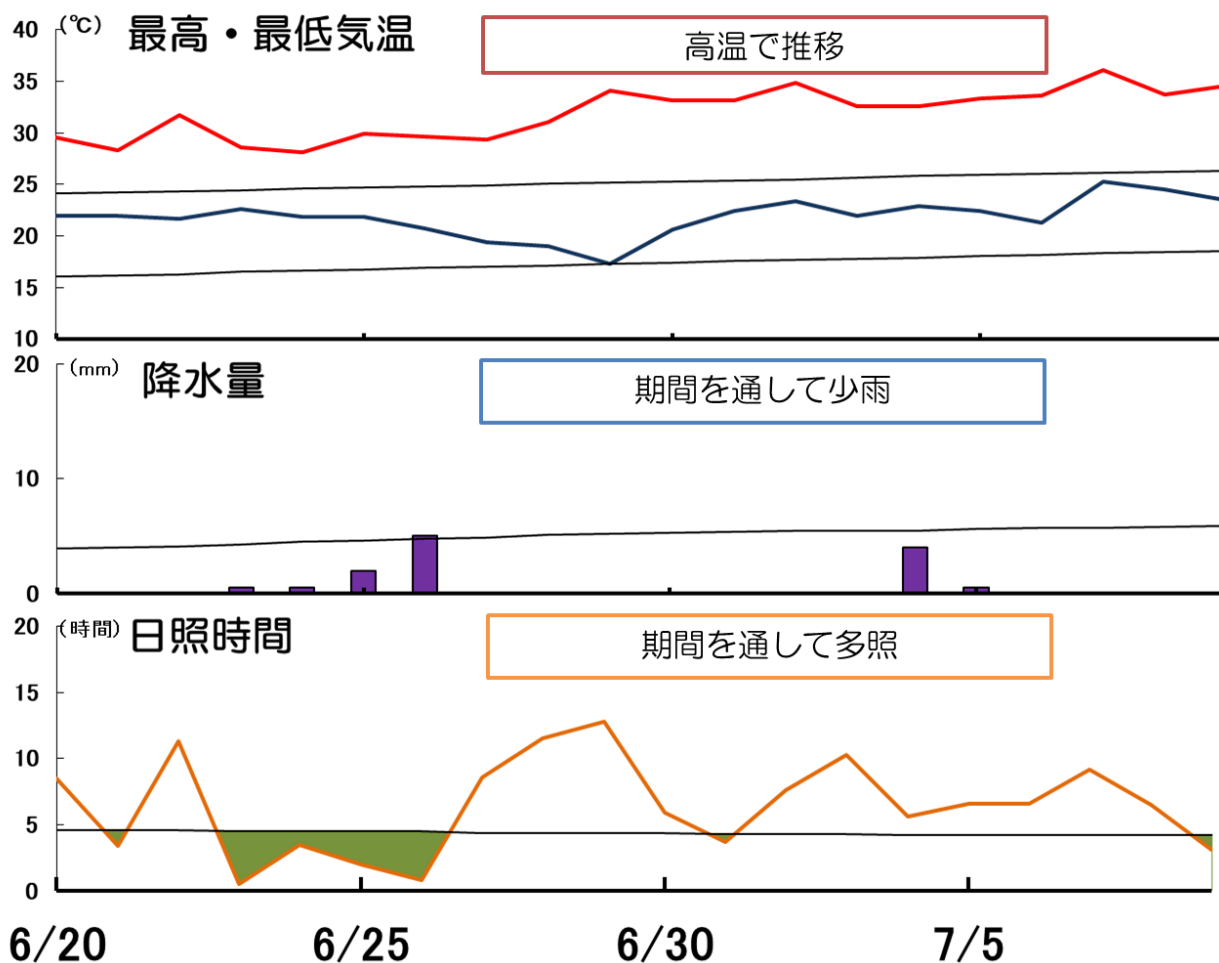
令和7年7月11日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】

観測地点：米山アメダス



7月上旬（7/1～7/9時点）の最高気温は30℃を超える日が続き、平均気温は平年より5.8℃高く推移しました。降水量は雨の降らない日が続き、平年比9%と大きく平年を下回りました。日照時間は平年比155%と平年を上回り、期間を通して高温多照となりました。

東北南部の平年の梅雨明けは7月24日頃となっています。7月10日時点では、雨の降らない日が続いていますが、今年の梅雨明けは発表されていません。

【東北地方の向こう1か月の天気予報】

令和7年7月10日 仙台管区气象台 発表

期間の前半は、気温がかなり高い状態が続く見込みです。天候は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう

1 生育状況

【移植栽培】

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査 地点	栽植 密度 (株/㎡)		移植日	7月1日			7月10日			
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GMI)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GMI)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	16.0	前年比・差 +2日 +6日	5月21日	54.8 110% 110%	504.0 106% 107%	42.0 1.1 -0.5	68.5 109% 108%	524.8 103% 104%	39.3 -4.1 -2.8	0.7 -0.1 -0.1
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	15.9	前年比・差 +5日 +5日	5月21日	54.1 101% 111%	375.2 74% 76%	44.0 2.0 1.3	65.8 101% 106%	408.6 78% 81%	38.5 -3.1 -2.3	0.9 -2.0 -0.6
3	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	15.4	前年比・差 +8日 +9日	5月12日	49.9 102% 103%	400.4 87% 82%	34.9 -4.0 -5.4	61.8 104% 104%	355.7 79% 72%	31.7 -5.2 -6.2	3.3 2.4 2.5
4	つや姫	Cタイプ	迫町	15.7	前年比・差 +1日 —	5月7日	61.2 100% —	447.5 81% —	34.9 -1.7 —	70.9 102% —	417.6 86% —	31.6 -1.9 —	0.3 -0.9 —
5	だて正夢	—	迫町	18.6	前年比・差 +2日 +1日	5月16日	71.3 122% 128%	552.4 111% 104%	40.1 -1.0 -2.6	82.8 120% 118%	524.5 114% 104%	36.9 -2.2 -2.3	1.8 0.2 1.0
7	つきあかり	—	豊里町	19.1	前年比・差 — —	5月3日	66.8 94% —	340.0 90% —	37.1 -2.1 —	83.0 105% —	315.2 90% —	33.5 -4.4 —	59.7 20.7 —

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農業8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値。

※つや姫、つきあかりは調査2年目のため、前年比・差は未記載。

7月10日現在の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、草丈は平年より高くなりましたが、葉色は平年を下回りました。幼穂長は1mm未満となっていますが、間もなく幼穂形成期に達すると思われます。

ササニシキ、つや姫は、茎数、葉色が平年を下回りました。だて正夢は、草丈、茎数が平年を上回りました。ササニシキ、だて正夢は幼穂形成期を過ぎています。

つきあかりの幼穂長は50mmを超えており、前年よりも生育が進んでいます。

【直播栽培】

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査 地点	播種月日		苗立ち本数 (本/㎡)	7月1日			7月10日			
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GMI)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GMI)	幼穂長 (mm)
1	ササニシキ	ブヲ耕 グレンド リル体 系	米山町	4月26日	前年比・差 110% 113%	87.2	45.7 99% 112%	391.5 87% 108%	32.8 -3.9 -4.7	55.9 100% 106%	406.8 72% 83%	32.9 -3.4 -5.7	0.8 — —

※ササニシキは調査5年目のため過去4か年の平均値を使用。

7月10日現在の生育状況は、茎数、葉色は平年を下回っています。幼穂長は0.8mmとなっており、間もなく幼穂形成期に達すると思われます。

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

管内の過去5か年平均の出穂期は8月1日頃です。今年も同時期になる見通しです。

生育ステージの予測値（7月9日現在）

移植日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
幼穂形成期	7/1～7/6	7/4～7/9	7/8～7/12	7/12～7/16	7/16～7/19
出穂期	7/24～7/31	7/28～8/4	8/3～8/7	8/7～8/10	8/10～8/13

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。

平均気温は7月9日までの米山アメダスの実測値。

☆幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成始期		25日前	1～2mm	—
減数分裂期	始期	15日前	3～4cm	
	終期	10日前	8～12cm	±0cm

(2) 水管理

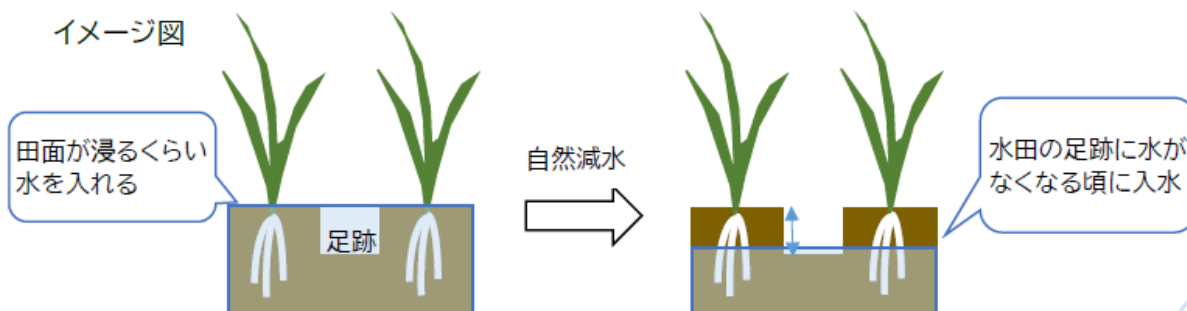
幼穂形成期に達したら、中干しを終了し^{ほうすい}間断かん水や飽水管理を行い、根に酸素と水分を与えましょう。水分が不足すると、幼穂の发育や開花受精が妨げられて減収につながります。水を切らないよう管理しましょう。

☆^{ほうすい}飽水管理の方法

- ① 水尻を閉める。畦畔から漏水がないか確認する。
- ② 田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- ③ 水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
- ④ 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。
（目安は3～5日おき）

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。
飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。

イメージ図



(3) 追 肥

本年の施肥窒素の減少は昨年よりも早くなっています。葉色が低下してきているほ場では追肥を実施しましょう。穂揃期以降も葉色を維持することで、高温による白未熟粒の発生を抑制することができます。

幼穂形成期追肥は下位節間の伸長につながりますので、草丈が長い、茎数が多く倒伏の危険性があるなどの場合は、幼穂形成期追肥を避け、減数分裂期に追肥しましょう。

環境保全米では、栽培期間中(育苗+本田)に使用できる化学肥料の窒素成分量が決まっています(合計 3.5kg/10a)ので、これまでの施用量を計算して追肥量を決定しましょう。

追肥時期別の施肥量

品種	窒素成分量 (kg/10a)	
	幼穂形成期 (出穂25～20日前) ＜幼穂長：1～2mm＞	減数分裂期 (出穂15～10日前) ＜幼穂長：30～120mm＞
ひとめぼれ、金のいぶき	1.0	1.0
ササニシキ	—	1.0～1.5
つや姫	2.0	—
だて正夢	—	2.0
つきあかり	1.0～2.0	1.0～2.0

(4) 病虫害防除

【発生予報第5号】 令和7年7月2日 宮城県病虫害防除所 発表

- | | | |
|-------------|------------|----------|
| ・いもち病（葉いもち） | 発生時期「平年並」 | 発生量「平年並」 |
| ・稲こうじ病 | 発生量「平年並」 | |
| ・紋枯病 | 発生量「やや多」 | |
| ・斑点米カメムシ類 | 発生時期「やや早い」 | 発生量「やや多」 |

葉いもち

茎数が多く、葉色の濃いほ場は葉いもちの発生に注意しましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米Cタイプで発生がみられた場合はJAにご相談下さい）

紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。また、高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く、降水量は多い確率が30%と予報されているため、注意しましょう。防除時期は出穂直前の穂ばらみ期～出穂期（7月下旬～8月上旬ごろ）です。

要防除水準（収量が5%以上の減収を想定する場合）は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%です（環境保全米で防除を検討する場合は、JAまでご相談ください）。

稲こうじ病対策

田面に落下した厚壁孢子が越冬し、発芽することで感染します。昨年は一部のほ場で発病が見られており、前年発生が多かったほ場では土壌菌量が多いため、本年も発生するリスクがあります。また、出穂前に降雨が多いと発生が多くなる傾向があります。前年に多発したほ場では、出穂20～10日前に銅剤による予防防除を行いましょう。紋枯病と同時防除可能な水面施用剤での対応も可能です。

斑点米カメムシ類の防除

宮城県病虫害防除所の巡回調査の結果によると、水田の周辺の畦畔および水田内におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくい取り虫数は平年より多くなっています。

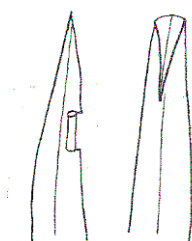
イネ科雑草（特にイタリアンライグラス等）の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになりますので、畦畔草刈りは水稻の出穂15～10日前までに終了するようにしましょう。

今年の管内の平均出穂期は8月1日ごろになる見通しですので、7月20日ごろまでには草刈りを終了するようにしましょう。

イネツトムシ（イチモンジセセリ）の防除

イネツトムシの葉の食害による減収被害は大きく、特に上位葉が被害を受けた場合は登熟の阻害、または葉が綴られ穂が折損する場合があります。防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。

特に、葉色の濃い稲や生育ステージの遅い稲（直播栽培を含む）を好んで産卵する傾向があるので、これらのほ場では発生に注意してください。



若齢幼虫の形成するツト